

# 「住民合意のない区画整理」反対ニュース

羽村駅西口区画整理反対の会 2022(R4)10/19 No.277 連絡先:山崎 陽一・神屋敦和子

## 法人市民税収入、ピーク時19億円が3億7千万円に減少 ～ 財政悪化により、区画整理続行困難に～

- 橋本市長 — 市財政は、非常に厳しい状況  
仮住まい者を元の生活に戻すことが最重要
- 検証会議 — 事業費の裏付けなど、西口区画整理の論点を  
洗い出し、次回11/29の会議で提言をまとめる
- 市議会 — 議会・経済委員会6人が「中神駅北口区画整理」の  
大幅見直しを視察

### —9月市議会報告—

#### 櫻沢議員：西口区画整理の経費は莫大な額だ

櫻沢：令和4年度も健全な財政の取り組みとして事業経費の見直しをした。敬老祝い金も削減して1億円の削減枠になったが、西口区画整理の経費は莫大だ。

令和5年度の事業費はどのくらいと見積もっているか。

部長：仮住まいをしている方々、合意に向けた移転交渉過程にある方々のための必要な額は来年度の予算に盛り込み、権利者に不利益が生じないようにする。

令和5年度の予算は、令和4年度の事業の進捗状況に応じて編成を行う。

#### 印南議員：西口区画整理地区内の人口が 1,090人減少 長期間の事業で権利者は、生活設計が出来ない

印南：検証会議の資料「平成13年からの地区内人口推移」で、羽村市全体で 2,121人の人口減少のうち約半数1,090人が西口区画整理地区内の減少人数。

市全体で1000人近く人口が増えた時も、この地区は405人減少している。

何人かの検証委員から、事業期間が長いので権利者が生活設計ができない事が問題の一つではないかとの発言があった。

(平成15年の事業開始時の西口区域内人口は3,400人、令和4年は2,304人)

部長：仮住まいで一時的に地区外に移転していることや、市が都市整備用地として土地を先行購入したことなどもあるが、改めて西口地区内人口減少の数値を把握した。様々な施策を展開しながら「まちづくり」をやって行かなければならないと感じた。

## 鈴木議員：有権者は、明らかに政策の変更を選択した

鈴木：市長は去年の3月の選挙で、区画整理事業の「検証」を掲げて当選。  
有権者の判断としては、明らかに政策の変更を選択した。

市長：「検証会議」の結論を待っている。今一番大事なのが仮住まいしている方を早く元の生活が出来る形に戻すということ。これ以上、手を広げるのではなく、今行っている事を令和6年3月迄の債務負担行為の中で行おうと思っている。

## 山崎議員：来年3月で終わる20年計画だったが、建物移転執行率は16.7% その上、多くの方が不自由な生活をしている

山崎：20年計画で2003(H15)年にスタートし19年目。事業費436億円のうち執行額が110億円で24%。建物移転予定970棟のうち162棟で16.7%。  
事業費の増加に比べ移転が進まないのは権利者無視の結果だ。  
また、162棟の取壊しに対し、再築は52棟。市外に転居した方や仮住まいなど、多くの方が不自由な生活をしている。

山崎：2021(令和3)年度の事業費は予算の15億6400万円が10億6400万円に減少。  
補償交渉予定46棟は26棟に減少、移転家屋も33棟から26棟に減少した。  
課長：権利者の状況に寄り添った移転協議をしていることや、コロナ対応、埋蔵文化財調査の影響等で執行率が低いと捉えている。

## 山崎議員：今年度は、移転51棟の予定を15棟に、補償交渉も65棟を13棟に削減したが、移転先に移れる保証がない

山崎：今現在、仮住まいしている26棟が移転先に戻るのが来年の4月。  
今年度、移転15棟、移転交渉13棟を予定しているが、移転して戻るまでに埋蔵文化財地区のため3年かかる。すると、これから移転や移転交渉を受け人の移転は、すでに委託契約終了後となり、換地先に移る保証がない。

部長：埋蔵文化財調査もあり見極めが非常に厳しい状況がある。  
権利者から「検証会議」について問い合わせは複数来ている。「検証会議」の動向も十分に注視しながら権利者の生活に不利益が生じないよう対応していく。

## 山崎議員：今こそ発想の転換が必要

山崎：普通のやり方で79年かかる事業を大幅に短縮したことで事業費は増大、権利者の心理的、肉体的、経済的負担は計り知れない。こうした市民、権利者の思いが「区画整理事業の検証」を掲げた橋本市長の誕生につながった。  
全国で区画整理事業の見直しが始まっている。今こそ発想の転換が必要。

市長：検証会議では具体的な事業手法を含め検討されると考えており、提言を参考に市として十分な検討を行い、事業の最適な方向性を導き出していく。

## 山崎議員：マルフジ向かい・景観破壊の「残土置き場」は、市の「区画整理を進める！」という住民への圧力

山崎：今年の2月、新奥多摩街道沿いマルフジ向かいに243万円を投じて、高さ3mの残土置き場が出来た。前部長時代の工事だが、羽村大橋向かいの空地にも土砂が積んである。そこが利用が出来たのではないか。マルフジ前は、本町町内会の子供の遊び場や畑を作っていた場所だ。



課長：羽村大橋向かいの市有地と今回設置した2ヶ所を候補地とした。羽村大橋の所だと、大型ダンプが周辺の生活道路に進入するため、児童生徒の通学路の安全面から、生活に極力影響せず視界も良好な新奥多摩街道沿いに設置した。

山崎：「何処の土砂か」と聞いたら、「羽村大橋向かいのマンションの土砂だ」と言う。すぐ隣に持って行かず、わざわざマルフジ前への設置は、住民へ「区画整理を進める」という意思表示。新奥多摩街道の方が交通量が多くて危険。「快適で住みよい街」を掲げながら景観破壊。矛盾だらけの事業現場を見るたびに住民は施行者への怒りと不快感を胸に刻み込んでいる。即刻の撤去を求める。

部長：景観上や交通安全上の指摘もあったので、「都市づくり公社」と検討し、改善策を講じる事が出来れば取り組んで行きたい。

山崎：1000棟の取り壊しや移転は、ぼう大な二酸化炭素・CO<sub>2</sub>を発生させる。これは温暖化防止の時代に逆行する。

部長：1棟の取り壊し・再築で約50tのCO<sub>2</sub>排出と答弁している。市も地球温暖化対策の推進計画を策定しているので、環境負荷の少ない「まちづくり」の努力はしていく。

## 水野議員：この区画整理の始まりは、多くの質問が出る中で市が「時間がきたから打ち切ります」というものだった

水野：この区画整理の説明会が始まったときの情景をすごく覚えている。質問したい人がいっぱいいたのに、市は「時間が来ましたから打ち切ります」と、やってしまった。それが禍根を残した。徹頭徹尾聞く徹夜しても聞く姿勢の中から市民の方も胸襟を開いて議論ができるようになる。

企画：いただいた指摘を踏まえ、今後検討していきたい。

水野：都道3・4・12号線の大橋から踏切までの工事に関して掘割でやるのかオーバーハングでやるのか話がついていない。都とちゃんと話をしていないのではないか。

部長：宅盤差もあるので、まずは生活道路への流入を防ぐために平面交差で貫通させていくことが使命と思っているが、その後の立体交差も含め東京都と話し合いの頻度はかなり高くなっていて、心配ないものと承知している。

## 10月3日の区画整理審議会で仮換地指定を諮問

(意見を聞く)

令和6年3月に公社との委託契約が終了。駆け込み諮問か・・・

(前々回、R3.6/25の審議会には約40件、前回、R3.10/11は約20件、「検証」を前に、駆け込みの換地の諮問がありました。)

- ・今回は、川崎4丁目(9件)と羽東2丁目の東小学校周辺(3件)の仮換地指定の諮問がありました。(市の土地を入れると19件)
- ・以前は家屋調査を終え、権利者に暫定の補償額を示してから審議会に諮問していましたが、このところ家屋調査もしていない宅地まで諮問しています。

反対の会推薦委員3名(神屋敷・清田・野崎)の仮換地指定の反対理由

- ① 基盤の目の道路網や道路率30%、全先行取得地を減歩に使わず約30ヶ所にばらく等、不公平な図面を認めることはできない。「検証」前に換地を進めるべきではない。
- ② 減歩や清算金など、審議委員の誰一人として公平性の確認が出来ていない。
- ③ 3.4.12号線の形状が定かたなく、宅盤差や対象宅地への対応がはっきりしていない。

移転交渉で、「仮住まい者の移転先を整備するため」や「遺跡調査の必要」を理由に、移転を迫ることが考えられます

- ・判りやすい図面を見ないと判らない場合があります。反対の会にご相談下さい。
- ・西口区画整理地区には4万㎡(地域の約1割)もの先行取得地もあります。移転や仮住まいを伴う区画整理ではなく、住民に負担を掛けない方法を考えるべきです。
- ・「検証」を前に、区画整理を広げていく換地をするべきではありません。(検証会議では、沿道整備街路事業や狹隘道路整備事業などの発言も出ています。)



家屋の移転補償金が出ると言っても、新築補償ではない。  
その上、清算金の額は、事業の完了時に決まります。清算金の額が解らないのに、補償額を認めることは出来ません。